

第 64 回評価監視委員会の開催について

第 64 回一般財団法人建設物価調査会評価監視委員会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

開催日時	2021 年 10 月 27 日（水）14：00～16：00	
開催場所	一般財団法人建設物価調査会 会議室	
出席委員 （五十音順）	鵜飼 誠（委員長（元会計検査院 第 1 局長）） 佐藤 淳（東邦監査法人 代表社員、公認会計士） 白戸 智（株式会社三菱総合研究所 スマート・リージョン本部 主席研究員） 高橋省三（一般社団法人自動車公正取引協議会 参与 名古屋経済大学 法学部教授） 宮本和明（パシフィックコンサルタンツ株式会社 社会イノベーション事業本部 技術顧問）	
当会	建築調査部 高橋俊一、渡辺弘一、島田理久、稲村明子 第二土木調査部 上田浩嗣、酒井将充、川崎 悠 調査統括部 神田尚昭、平野光芳 監査審査室 今井 豊、吉田光正	
審議案件	案件	備考
	委員長選出	評価監視委員会規則に従い、委員の互選により鵜飼委員が委員長に選出された。
	（定期調査） 仮設・土木用材（東京）	「建設物価」2021 年 8 月号 154 ページ 掲載価格について、調査結果記録票、調査結果集計表等に基づき、調査方法、調査プロセス等を説明
	（受託調査） 強化プラスチック管（FRPM 管） （熊本県下益城郡）	受託調査について、調査票、調査報告書等に基づき、調査方法、調査プロセス等を説明
委員からの主な意見・質問 それに対する調査会からの回答等	別紙のとおり	
委員会による指摘 （不適切な点又は改善すべき点）	なし	

別紙

意見・質問	説明・回答
<p>1 定期調査について 仮設・土木用材</p> <p>○輸送費込みの現場渡しの価格を集計していると理解してよろしいか。</p> <p>○リサイクル品の使用、製品の転用はあるのか。</p> <p>○工場生産品とは異なり木材製品は各社の品質にバラツキはないのか。</p> <p>○輸入材と国産材で価格差はあるのか。</p> <p>○仮設・土木用材の原木は間伐材の使用が前提なのか。</p> <p>○松矢板と雑矢板の互換性はあるのか。</p> <p>○土木・仮設用材とは異なり、建築用の管柱については、関東地区が他地区より高値気味である理由は何か。</p>	<p>○その通りである。</p> <p>○足場用合板についてはあるが、矢板（松）については、土木用途が多く、深さによっては埋め殺しとなる場合もある。</p> <p>○建築用木材については、節の有無等で等級付けがされている。ただし、仮設・土木用材はあくまで現場足場等の仮設が目的であり、等級付けはない。</p> <p>○仮設・土木用材の約 9 割以上を国産材が占めており、輸入材と国産材の競合は少なく、目立った価格差はない。</p> <p>○仮設・土木用材の原木は間伐材が多く使用されている。</p> <p>○松矢板は硬質であり、公共工事に使用される板材は松矢板にほぼ限定されている。雑矢板はいろいろな樹種が混ざっている。施工業者は両者を使い分けている。</p> <p>○建築用の管柱については、大消費地の東京を中心に住宅メーカー向け需要の伸びがあり、「ないもの高」が生じ、他地区より高値となっている。</p>

別紙

意見・質問	説明・回答
<p>2. 受託調査について 強化プラスチック管（FRPM 管）</p> <p>○発注者は標準の製品長より短い製品を使用するため調査を依頼したのか。</p> <p>○受託調査は「建設物価」未掲載の資材等について依頼があるのか。</p> <p>○昨年、調査した現場と同じ現場についての調査依頼なのか。</p> <p>○需要家渡し価格を調査しているのか。また、商流はどのようになっているのか。</p> <p>○集計結果全体を見ると報告のベースとしたメーカー以外の回答に安価な規格がある。報告のベースとしたメーカーはシェア等を踏まえて決定したのか。</p> <p>○過年度の当委員会で取り上げたダクティル鑄鉄管と FRPM 管の競合はあるのか。</p> <p>○FRPM 管とダクティル鑄鉄管のどちらを使用するかは、発注者の判断となるのか。</p>	<p>○その通りである。</p> <p>○依頼いただくこともある。</p> <p>○昨年調査した現場に隣接した現場である。</p> <p>○取扱店が需要家に販売する価格を調査している。</p> <p>○その通りである。</p> <p>○ダクティル鑄鉄管に対する需要も多い。</p> <p>○その通りである。</p>
<p>3 次回開催日について</p> <p>○次回評価監視委員会は、2022 年 2 月下旬に開催予定。</p>	